巻頭特集

レスリング高校三冠を達成！

神谷龍之介選手 世界の頂をめざして

10月に開かれた第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」において、
三重県立いなべ総合学園高等学校（以下、いなべ総合学園）の神谷龍之介選手は
レスリング少年男子フリースタイル80キロ級で優勝した。
3月の全国高校選抜大会、8月の全国高校総体に続き、これで高校三冠を達成。
オリンピアンへの道のりを着実に歩んでいる。

PROFILE
三重県立いなべ総合学園
高等学校　レスリング部 3年
神谷龍之介選手

2004年、いなべ市に生まれる。母の勧めで4歳からレスリングを始める。石榑保育園、石榑小学校、大安中学校を経ていなべ総合学園へ。同部における高校三冠は、高橋侑希選手、藤波勇飛選手に次ぐ3人目の快挙

嫌々続けたレスリング その魅力に気づいた日

10月中旬、いなべ総合学園のレスリング場を訪ねた。直径9メートルの円形マットの上で、複数の選手がスパーリングしている。コーチが手前で組み合う選手を指し、「あれが神谷ですよ」と教えてくれた。精悍な顔に、長い手足。大腿部の引き締まった筋肉が、鍛錬の日々を物語る。

いまやフリースタイル男子80キロ級において名実ともに日本一の高校生だが、両親は競技経験者ではないという。レスリングとの出合いは4歳の時。市の広報誌を読んだ母が友人と意気投合し、いなべ総合学園のレスリング場で開かれるいなべレスリングクラブ（現・いなべレスリングアカデミー）に通わせたのが始まりだ。「当時の僕にとって、レスリング場は怖いところでした。実は毎日、行きたくないと思っていたんです」と神谷選手は振り返る。対戦相手を見据える闘志のこもった眼差しとは異なり、はにかむ表情はいたって普通の高校生だ。

いなべレスリングクラブは2018年に本誌で紹介したが、現役時代に国体を連覇した経験を持つ藤波俊一さんが、日本体育大学を卒業後に立ち上げたクラブである。これまでに輩出してきた数々の有名選手のうち、自身の息子の勇飛さんは高校三冠の達成者で現在は総合格闘家、さらに娘の朱理さんは53キロ級の現役選手で公式戦103連勝という記録を更新中だ。当時はみな幼かったとはいえ、レスリング場では体の大きな高校生までが練習に励む。幼少期の神谷選手が「怖いところ」と感じたのも無理はない。

嫌々ながら通っていた神谷少年だが、その開花は早かった。石榑小学校時代に2回、大安中学校時代に1回、日本一に輝いている。しかし、当の本人はレスリングの楽しさを感じたことがなかったというから驚きだ。「もちろん、大会で勝てばうれしいんですけど、レスリングをするのが当たり前の生活でしたから」

2020年、その当たり前の生活が失われた。新型コロナウイルスの感染拡大によって、いなべ総合学園も一時休校。当時1年生だった神谷選手は、自宅を中心としたトレーニングを余儀なくされた。「しばらくして学校が再開した後、初めてレスリングの楽しさ、日常の大切さを感じました」と話す。

適正より上の階級で出場 スタミナを武器に世界へ

レスリングの楽しさを感じた神谷選手は、それまで以上に真剣に取り組むようになる。上級生にスパーリングを願い出ては、技、組手、体の使い方を積極的に学んでいった。その成果は翌年、全国高校選抜大会2位という結果となって表れる。

「神谷の良さは、まずスタミナがあるところ。とくにそう感じたのは高校2年の頃でしょうか。たとえリードされても、後半から巻き返して勝つ試合が増えてきました」と藤波監督。日々のトレーニングメニューは監督が考案し、ときには個々に適したメニューを指示する。「それと、神谷は74～75キロの選手なんです。それがチームの事情で80キロ級に出てもらっている。そこで結果を出すことのすごさを、わかりますか？」と監督は続ける。

高校レスリングにおける団体戦では51キロから125キロ級までの7階級をそろえたうえでの勝負となる。いなべ総合学園では団体戦の優勝を第一目標に掲げているものの、現メンバーでは7階級がそろわない。そのため、71キロ級には別の選手を入れ、神谷選手は80キロ級での出場を余儀なくされる。それでも125キロ級は不在のため、チームとして不利であることに変わりはない。「チームで一番大きいのが神谷ですから、自分よりも大きい体格の選手と練習できる機会はありません。そんな環境にあっても、彼は結果を出してくれる。本当によくやっていますよ」と監督はほほ笑む。

その80キロ級で高校三冠を達成した神谷選手だが、実は4月にJOCジュニアオリンピックカップ（U20）男子フリースタイル74キロ級も制している。この大会は20歳以下のため、大学生も参加する中での優勝である。いわば四冠であり、いなべ総合学園における男子初の快挙だ。しかし、神谷選手は8月に開催されたU20世界選手権2位という結果を悔やむ。「決勝はアゼルバイジャンの選手と戦いましたが、『何が何でも勝ちにいく』という気迫を感じました。世界で勝つためには、まだまだ学ぶことがあります」と話す。

今後、選考会の結果によっては12月に全日本選手権に出場、そして来年1月には全国高校選抜チームとしてアメリカ遠征に参加する可能性が高い。「まずは大学進学、そして将来の目標は2028年のロサンゼルスオリンピックです。結果を出して、地元の皆さんに恩返しをしたいです」。穏やかな口調で大いなる夢を語ってくれた。

1.2.毎日のメニューは監督の指示による。持久力と筋力を鍛えるための基礎メニューが欠かせない　3.練習には男女部員がともに参加する。監督いわく「女子部員でも期待できる逸材がいます」とのこと。今後の活躍に期待したい

三重県立いなべ総合学園
高等学校　レスリング部
藤波俊一監督

三重県立いなべ総合学園高等学校　いなべ市員弁町御薗632　0594-74-2006　文／延原正人　写真／BUNBUNphotos 井浪勇一郎　デザイン／chica